

支援の輪が
広がっています

皆さまからの声

子どものころから当り前に存在し、馴染んでいたあの松林が、人の手によって植えられ、ずっと守られていたことを、初めて知りました。それから、日本の森について本を読み、話を聞きました。そして、この初めて知ったことを、周囲の人に得意がって話しました。私のような人が、このプロジェクトを支援することで、全国に何人も生まれたということは、とても意義深いことだと思います。
(宮城県/男性/仙台空港関連社長)

立ち上げ以降、多くの困難を伴っただろうと想像しておりましたが、その経緯を直接お聞きし、クロマツ苗の床替作業の一端に参加することで、身をもって認識しました。名取の地で世代や国を超えて多くの人々の出会いと交流をもたらしていることも意義のあることです。こうして築かれた交流関係が、名取市の将来への仕掛けとなることに期待を寄せるものです。
(宮城県/女性/大学教授)

宮城の人にとって、震災で流失してしまったからこそ、初めてその存在に目を向けるようになったという方も多いのでは。祖先が植え、人間を守った海岸林を、再び育てる。しかもそこには数十年、数百年という時の流れがある。プロジェクト自体に、雄大さと同様に、人間を感じさせます。これからも多くの人間を巻き込んで進めていってほしいと思っています。
(宮城県/男性/報道)

失われたクロマツ林の再興と同時に、名取の被災農家の暮らしの再建を支援する取組みでもあることは、地元新聞でも何度も報道されています。しかし、全国的には他の植林事業と変わらない認識ととらえられていることは否めません。そうした点で、作業に従事する農家のみならずの暮らしぶり、その変化などを伝えていただく機会をさらに充実してほしいと期待します。
(宮城県/女性/会社員)

海岸林再生を長いスパンで捉え、継続的に携わる姿勢に共感を覚えます。また、技術面では、現地の土壌や気候条件を踏まえ、先人が培ってきた技術に忠実に進めていることに安心感があります。さらに、ソフト面では、被災された人たちの就労の場を提供するなど、地域みんなで海岸林を再生させていこうとする意識を醸成し、地域に根付いた活動となっていることは素晴らしい。
(宮城県/男性/公務員OB)

官、学、産、民が協働で行うこのプロジェクトは、内容、規模ともに壮大な事業。誰のためと言う問題ではなく、日本国民のため、日本という国のための位置づけと考えています。企業は社会の一員であり、社会に尽くし、環境意識を持つと言うコンセプトを社員全体に浸透させるに十分な事業だと思います。
(東京都/男性/鉄鋼メーカー幹部)

PHOTO: 名取市海岸林再生の会・オイスカ第一育苗場 (撮影2013.4.21)



東日本大震災復興支援

海岸林再生プロジェクト 10ヵ年計画

津波で失った宮城県名取市の「生活インフラ」である海岸林約100haの復活をめざし、
毎年10万本のクロマツ植栽がスタートしました



ご寄附の
お願い

プロジェクトの目標

- 東京オリンピックが開催される2020年までに、約50万本の育苗・植栽・育林(100ha)相当を行います
- 国・自治体の復興計画に沿い、行政と民間の連携・協働を推進します
- 2033年までに育苗・植栽・育林の過程で約11,000人の雇用を生み出します
- 「なぜ全国の津々浦々に海岸林が存在してきたのか」を、多くの方にご理解いただく取り組みとします

皆さまも気軽に取り組める
企業を通じた支援事例



紙の省資源化やカードポイントから
支援できます



全国すべての店舗で
レジ募金が出れます



カタログギフト「ローズセレクション」
から支援できます



従業員とお客様が一緒に支援する
取り組みです



環境に優しいエンジンオイル交換を
通じて支援できます



〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎(03)3322-5161 ☎(03)3324-7111
E-mail kaiganrin@oisca.org
(海岸林再生プロジェクト担当: 吉田俊通・林久美子)

■海岸林再生プロジェクト ホームページ
<http://www.oisca.org/kaiganrin/>
ボランティア募集要項はこちら。ブログは毎日更新中!



2011年5月 被災直後の壊滅した名取市海岸林

2013年9月 約3mの植栽基盤盛土工事を終えた植栽予定地

2020年~ 将来の海岸林イメージ断面図

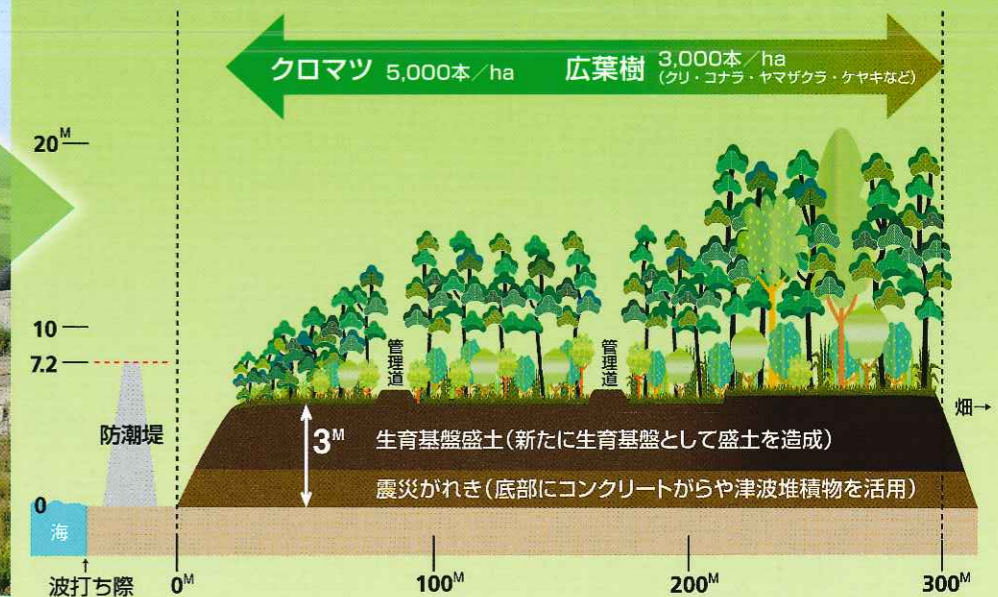
林野庁「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」資料を元に構成



名取市海岸林北端より仙台空港方面を望む



名取市海岸林中央部より仙台空港方面を望む



これまで行ってきたこと

2011年~2013年

- 林業種苗法に沿って講習受講・資格取得を行い、種苗組合に加入することが出来ました(2011年)
- 国や県・市、種苗組合、森林組合等と協議を重ねた上で、被災地農家を中心に「名取市海岸林再生の会」を設立しました(2012年2月)
- 初めてクロマツの播種を行い、50万本以上を目標とする育苗を開始しました(2012年3月)
- クロマツ育苗などに関する雇用数約1,000人(2014年3月現在)
- 現地視察・ボランティア2,000人以上、活動報告 聴講者10,000人以上(2014年3月現在)



清藤城宏(オイスカ緑化技術参事) 佐々木廣一(オイスカ名取事務所統括)

これから行ってゆくこと

2014年~2020年

- 毎年10万本前後のクロマツ等の植栽。約100haの海岸林や内陸防風林の再生を目指します
- 年間雇用数約1,000人以上、ボランティア・視察など受入は年間約2,000人に及ぶ予定です
- 育苗・植栽・下刈り・つる切り・除伐・啓発活動など2011年~2033年の全体経費10億円を募金します
- 活動報告会・写真展などで、「海岸林の存在理由」をご理解いただくための取り組みを行います



2011年5月に海岸林再生を決意し、昔の「愛林組合」に習い当会を設立してから、数千人の方に海岸林の事を説明し、大勢の方にご支援いただきました。地元住民を代表してまず御礼を申し上げます。名取市の海岸林は400年前伊達政宗公の命により造成されました。毎年5月から8月にかけてオホーツクからの冷たい風は、古来「ヤマセ」と呼ばれ、冷害の原因となっており、松林が無くなるこの地の農業には致命的です。潮風は内陸奥深くまで吹いて来ます。海岸林の再生は名取だけの問題でなく、海岸林が破壊された地域全体の問題です。非常に長い取り組みになりますが、ご支援・ご参加をお願い申し上げます。

名取市海岸林再生の会 会長 鈴木英二

名取市海岸林再生の会メンバーのコメント

我々が小学校に通ったころはストーブの燃料として松ぼっくりを持って学校に行き、家に帰っては煮炊きのために松葉を集め、キノコを探して食事に彩りを添えてきました。倒された松は、私たちの世代が子どもの時に植えたものもあります。「孫の世代のために」と地域住民有志で海岸林の再生を決意し3年が経ちましたが、住むところがバラバラになってもクロマツのお世話に来れば仲間に見える場所とさせていただいています。これから植栽が始まりますが、春の強風である「蔵王おろし」と乾燥、夏のヤマセと高潮、厳しい寒さの冬など厳しい気候が立ちまわります。ですが、名取市民と全国の支援者、そして若い世代からも協力を得ながら、この大きな課題の解決に当たりたいと思っています。

第一育苗場班長 大友英雄・きよ子夫妻

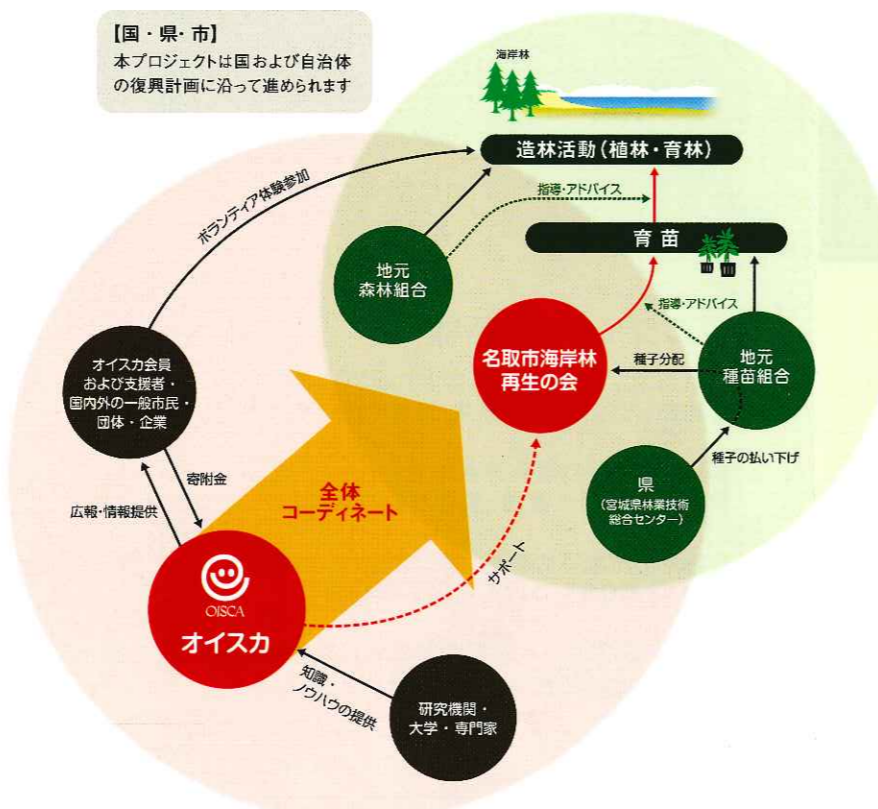


全国の支援者のご理解のもと、クロマツを育てながら収入を得られるのは、本当にありがたいことと深く感謝しております。私たちは第一に、主収入の小松葉や青梗菜のための農業基盤をまず確立しなければなりません。しかし、名取の海岸には祖父たちが中心となり、子どもだった私たちも加わって昭和32年まで10年かけて村中総出で取り組んだ大造林の「愛林」碑(名取市広浦)があります。碑文にもある「名取耕土」再興のために、日々の時間の合間を使って、身近な自分たちの畑の一角を上手に使い、種苗組合などからも技術指導を得ながら、毎朝毎晩、自分の目で確かめ、愛情をこめて根気強くクロマツを世話しようと思っています。時代は変わっても、海岸林が大切である理由は変わりません。

第二育苗場班長 桜井重夫・恵子夫妻



海岸林再生プロジェクトの全体像



海岸林再生の長期フロー

